（11）トルコギキョウ
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	FRACコード	適用病害虫名											注意事項
			灰色かび病	斑点病	立枯病									
オーソサイド水和剤８０	ｷｬﾌﾟﾀﾝ	M04			花									花:【花き類・観葉植物登録】
ゲッター水和剤	ｼﾞｴﾄﾌｪﾝｶﾙﾌﾞ・ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ	10･1	花											花:【花き類・観葉植物登録】
トップジンＭ水和剤	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ	1		◎										
ファンタジスタ顆粒水和剤	ﾋﾟﾘﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	11	◎	◎										
パレード２０フロアブル	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ	7		◎										
ポリオキシンＡＬ水溶剤	ﾎﾟﾘｵｷｼﾝ複合体	19	花	◎										花:【花き類・観葉植物登録】
メジャーフロアブル	ﾋﾟｺｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	11		◎										
リゾレックス水和剤	ﾄﾙｸﾛﾎｽﾒﾁﾙ	14			花									花:【花き類・観葉植物登録】
リゾレックス粉剤	ﾄﾙｸﾛﾎｽﾒﾁﾙ	14			花									花:【花き類・観葉植物登録】

（11）トルコギキョウ
イ　殺虫剤

農薬名	成分名	IRACコード	適用病害虫名																	注意事項
			アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類													
アクタラ顆粒水溶剤	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	4A		◎																
アグリメック	ｱﾊﾞﾒｸﾁﾝ	6	花				花													花:【花き類・観葉植物登録】
オルトラン水和剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	1B	花		花															花:【花き類・観葉植物登録】
オルトラン粒剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	1B	花		花															花:【花き類・観葉植物登録】
スカウトフロアブル	ﾄﾗﾛﾒﾄﾘﾝ	3A	◎		◎															
ダニトロンフロアブル	ﾌｪﾝﾋﾟﾛｷｼﾒｰﾄ	21A					花													花:【花き類・観葉植物登録】
ダブルシューターＳＥ	脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ・ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ	5	花				花													花:【花き類・観葉植物登録】
トレボン乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	3A				◎														
バロックフロアブル	ｴﾄｷｻｿﾞｰﾙ	10B					花													花:【花き類・観葉植物登録】
プレオフロアブル	ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙ	UN				花														花:【花き類・観葉植物登録】
ポリオキシンＡＬ水溶剤	ﾎﾟﾘｵｷｼﾝ複合体	19	花				花													花:【花き類・観葉植物登録】
マブリック水和剤２０	ﾌﾙﾊﾞﾘﾈｰﾄ	3A	◎																	
マラソン乳剤	ﾏﾗｿﾝ	1B	花		花		花													花:【花き類･観葉植物登録】
モスピラン顆粒水溶剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ	4A	花		花															花:【花き類・観葉植物登録】
ロディー乳剤	ﾌｪﾝﾌﾟﾛﾊﾟﾄﾘﾝ	3A			花		花													花:【花き類・観葉植物登録】
〈　くん煙剤　〉																				
テルスタージェット	ﾋﾞﾌｪﾝﾄﾘﾝ	3A					花													花:【花き類・観葉植物登録】
マブリックジェット	ﾌﾙﾊﾞﾘﾈｰﾄ	3A			花															花:【花き類・観葉植物登録】
モスピランジェット	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ	4A		◎	◎															

（11）トルコギキョウ
ウ　土壌消毒剤

農薬名	成分名	RACコード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名 立枯病													注意事項
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	ﾀﾞｿﾞﾒｯﾄ	I:8F	花													花:【花き類・観葉植物登録】
クロピク80 ドジョウピクリン ドロクロール	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B	花													花:【花き類・観葉植物登録】 *Fusarium* 属菌で登録

エ　病害虫防除法（トルコギキョウ）

（ア）灰色かび病　*Botrytis cinerea*

（防除のねらい）

多湿条件で発生しやすく，ハウスの谷下部などの湿度の高い場所で発生し始める。茎で発病すると立ち枯れ症状となり，有色品種では花弁にしみを生じる。また，風通しが悪くなると発生するので，換気を行ったり，密植を避けるなどの注意が必要である。

（耕種的防除法）

（１）施設内の換気を十分図る。
（２）被害葉・花茎は除去する。

（イ）斑 点 病　*Pseudocercospora nepheloides*

（防除のねらい）

盛夏を除き，ほぼ年間を通して発生するが，特に春から秋の多湿条件下で多発する。葉に５～10㎜程度の退緑斑を生じ，後に葉の表と裏に黒～灰褐色のすす状病斑となる。病斑は下位葉を中心に発生し，上位葉へ伸展する。生態や伝染環についての詳細は不明であるが，病斑上に形成される分生子により伝染する。

（耕種的防除法）

（１）多湿条件で発生が助長されるため，施設内の通風及び換気に努める。
（２）発病葉は除去する。
（３）罹病株の残さは伝染源となるため，施設外に持ち出し適切に処分する。

（ウ）立 枯 病　*Rhizoctonia* sp.

（防除のねらい）
（耕種的防除法）　キクの項参照

（エ）アザミウマ類

（防除のねらい）

ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどがつぼみ，花弁や葉を食害する。花弁や葉にカスリ状の食害痕が生ずる。発生初期の防除に重点を置く。ウイルス病を媒介するので生育初期の発生に注意し，残渣や感染株はほ場に放置しない。

（オ）アブラムシ類

（防除のねらい）

アブラムシ類による直接的な被害は新梢，新葉，花等に生じ，吸汁による著しい生育抑制が発生する。また，アブラムシ類の排泄物にすす病が発生する。ウイルスも媒介するので生育初期の発生に注意し，残渣や感染株はほ場に放置しない。

（カ）ハスモンヨトウ

（防除のねらい）

８～10月に発生が多く，成虫は葉に産卵する。ふ化幼虫は集団で表皮を残して加害し，葉は白変する。幼虫が成長すると分散し，葉・花を加害する。幼虫が大きくなると薬剤の効果が劣るので，早期発見に努め，若齢幼虫のうちに防除する。

（キ）ハダニ類

（防除のねらい）

ナミハダニが主体で年間の発生回数も多く，ハウスでは冬でも発生する。茎葉が繁茂すると薬剤がかかりにくく，発生が多くなると防除が困難になるので，早期発見に努め，新芽や葉裏までむらなくかける。同一薬剤は連用は避ける。